

選択

吉高神太陽

机の引き出しを開けるたび、
手紙や写真、破れたチケットが語り掛ける。
捨てるべきものと、捨てられないものの狭間で、
心はゆれる。

このしわだらけの紙切れは何だろう???

「また行こう」と約束した日から、

一度も触れなかった地図。

行かなかった道。

それでも、あの日の笑顔が宿るから、

指先の迷いを見せる。

捨てる、とは何だろう？

それを忘れること？

それとも、新しい空間を生むこと？

けれど、捨てない、とは何だろう？

それは過去に縛られること？

それとも、繋がりを守ること？

道端に落ちた枯葉は、

土に還り、新しい命を育む。

だからと言って、すべてのものが

そのように自然に循環するわけではない。

捨てられない感情が胸に詰まる日もある。
捨てたはずの記憶が夢に忍び寄る夜もある。
選択はいつも難しい。

けれど、私は知っている。

捨てることも捨てないことも、

どちらも私の一部だ。

手放した重さも、抱え続けた温もりも、
すべてが、私を形づくる。

今日、またひとつ手にとる。

それをどうするか、まだ決められないけど、
その迷いこそが、生きている証だと思う。